



システム管理設定の管理

この章は、次の項で構成されています。

- 「送信メール サーバの設定」 (P.4-1)
- 「システム パラメータの設定 (オプション)」 (P.4-2)
- 「ライセンスの更新」 (P.4-3)
- 「ライセンス使用状況の確認」 (P.4-4)
- 「ライセンス使用率履歴の表示」 (P.4-4)
- 「リソース使用率のデータの表示」 (P.4-5)
- 「アプリケーション カテゴリの編集」 (P.4-5)
- 「ポータルのカスタマイズ」 (P.4-6)
- 「レポートのカスタマイズ」 (P.4-9)
- 「高度なコントロール」 (P.4-9)
- 「ユーザ メニュー」 (P.4-10)
- 「ユーザの権限」 (P.4-11)
- 「システム タスクの管理」 (P.4-11)
- 「アイコンの管理」 (P.4-15)
- 「サポート情報」 (P.4-16)



(注) 当該アプライアンスにログインしてからでないと、以下の手順はいずれも実行できません。

送信メール サーバの設定

Cisco UCS Director から電子メールを送信する場合は常に SMTP サーバが必要です。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [電子メール設定] タブを選択します。

ステップ 3 [電子メール設定] ペインで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[送信電子メールサーバ (SMTP)] フィールド	送信 SMTP サーバのアドレス。
[送信 SMTP ポート] フィールド	送信 SMTP サーバのポート番号。
[送信 SMTP ユーザ] フィールド	ユーザ ID。
[送信 SMTP パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[送信電子メールの送信者の電子メールアドレス] フィールド	送信者の電子メール アドレス。
[Clouppia サーバ IP アドレス] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたは DNS 名。このフィールドは、ユーザ ワークフロー アクション用のリンクを電子メール内で作成するために使用されます。
[テストメールの送信] チェックボックス	オンにすると、現在の電子メール設定がテストされます。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

システムパラメータの設定 (オプション)

システムパラメータの設定 (オプション)

システムパラメータを編集するのは、そのデフォルト値を変更する必要がある場合だけにしてください。

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。

ステップ 2 [システムパラメータ] タブを選択します。

ステップ 3 [システム] ペインで、以下のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[削除した VM のデータを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、VM データをシステムに保持しておく日数。
[イベントを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、すべてのイベントをシステムに保持しておく日数。 (注) 指定した期間を超えたイベントは削除されます。
[傾向データを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、インベントリの傾向データまたは履歴データ (CPU、ストレージ、メモリの使用状況など) をシステムに保持しておく日数。 (注) このデータはレポートに使用されます。
[計測データを保持する日数] ドロップダウンリスト	VM の計測記録をシステムに保持しておく日数を選択します。 (注) これは、VM とそのリソースに固有のデータです。

名前	説明
[URL からの VM ロック コントロールのダウンロード] フィールド	指定した URL からの VM ロック コントロール。 (注) このファイルは XML 形式である必要があります。
[通貨] ドロップダウン リスト	使用する通貨タイプを選択します。使用できる通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、[KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、[AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、[MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、[KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および [その他] です。
[その他の通貨] フィールド	このフィールドは、[通貨] で [その他] を選択した場合には表示されます。通貨名を (1 つだけ) 入力してください。
[通貨の精度] ドロップダウン リスト	小数点以下の桁数を選択します。0 ~ 5 桁の範囲で指定できます。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

インフラストラクチャ システム パラメータの設定 (オプション)

仮想システムおよび物理システムのインフラストラクチャ リソースをポーリングするパラメータを設定できます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [インフラストラクチャシステムパラメータ] タブを選択します。
- ステップ 3** 入力ボックスに、インフラストラクチャのポーリング間隔を分単位で入力します。デフォルトは 60 分です。
- ステップ 4** 入力ボックスに、システムのインフラストラクチャの傾向データを保持する日数を入力します。デフォルトは 30 日です。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。

ライセンスの更新

製品認証キー (PAK) を使用してライセンスを更新できます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ライセンス] の順に選択します。
- ステップ 2** [ライセンスキー] タブを選択します。
- ステップ 3** [ライセンスの更新] オプションをクリックします。[PAK の更新] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [参照] をクリックして、PAK ライセンス ファイルまで移動し、選択します。
- ステップ 5** [アップロード] をクリックして、PAK ライセンス ファイルをアップロードします。



(注)

ライセンス ファイルがアップロードされない場合は、チェックボックスをオンにし、ライセンス テキストをコピーしてライセンス テキスト フィールドに貼り付けます。

ステップ 6 [送信] をクリックします。ライセンスが更新されます。

ライセンス使用状況の確認

[ライセンス使用率] ページには、使用中のライセンスが表示される他、ライセンス制限、利用可能なライセンス数、ステータス、備考など、各ライセンスの詳細情報も表示されます。このページからライセンス監査を実行することもできます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。
- ステップ 2** [ライセンス使用率] タブを選択します。
- ステップ 3** Cisco UCS Director アプライアンスを選択します。
- ステップ 4** (オプション) ライセンス監査を実行する場合は、[ライセンス監査の実行] をクリックします。
- ステップ 5** [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。このプロセスの実行には数分かかります。

ライセンス使用率履歴の表示

ライセンス取得済みのネットワーク コントローラとストレージ コントローラ、サーバ、サーバ VM とデスクトップ VM、スモール ポッドとミディアム ポッドの数は、経時的に追跡できます。これにより、ネットワーク リソースの使用状況を確認できます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。
 - ステップ 2** [ライセンス使用率履歴] タブを選択します。
- 次のリソース カテゴリに関するライセンス使用率履歴が表示されます。
- ネットワーク コントローラ
 - ストレージ コントローラ
 - サーバ
 - サーバ VM
 - デスクトップ VM
 - スモール ポッド
 - ミディアム ポッド

リソース使用率のデータの表示

環境内におけるリソースの使用状況を表示できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。

ステップ 2 [リソース使用率のデータ] タブを選択します。

次の 3 つのレポート カテゴリがあります。

- レポート コンテキスト：各リソースで利用可能なレポートの数が表示されます。
- リソース名：Cisco UCS Director に関連付けられた利用可能なリソースの名前。
- リソース カウント：利用可能なリソースの数。

アプリケーション カテゴリの編集

Cisco UCS Director を使用してプロビジョニングされる VM はすべて、そのタイプ別に分類されます。VM のタイプには、Web サーバ、データベース、アプリケーション サーバなどがあります。Cisco UCS Director には、検出された VM 用の個別カテゴリも用意されています。

使用または編集できるアプリケーション カテゴリは、12 種類です。

- 検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーション サーバ
- データベース
- アプリケーション：CPU 集約型
- アプリケーション：メモリ集約型
- アプリケーション：ディスク集約型
- アプリケーション：ネットワーク集約型
- その他のアプリケーション 1
- その他のアプリケーション 2
- その他のアプリケーション 3

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。

ステップ 2 [アプリケーションカテゴリ] タブを選択します。

ステップ 3 [アプリケーションのカテゴリ] を選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 [カテゴリの編集] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[カテゴリ ID] 表示専用フィールド	システムによって当該カテゴリに指定される数値。

[カテゴリラベル] フィールド	カテゴリ タイプ。
[カテゴリコード] フィールド	VM およびホストの名前。
[説明] 表示専用フィールド	カテゴリの説明。
[有効になっているカテゴリ] 表示専用チェックボックス	デフォルトはオンです。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム] ドロップダウンリスト	アルゴリズムを選択します。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

ポータルのカスタマイズ

セルフサービス ポータルはカスタマイズ可能です。ブランディングおよびインターフェイス関連の変更を加える手段として、ロゴ、ログイン ページ、ホーム ページなどをカスタマイズできます。

ログイン ページおよび背景イメージのカスタマイズ

ログイン ページおよび背景イメージは、カスタム イメージをアップロードすることで変更できます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインページ] をクリックします。
- ステップ 3** [カスタマイズ可能なログインページの使用] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ロゴイメージ]、[背景イメージ] のいずれかまたは両方のペインから、項目を選択します。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。

アプリケーション ロゴのカスタマイズ

ホーム ページのアプリケーション ロゴは、カスタム イメージをアップロードすることでカスタマイズできます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [アプリケーションロゴ] タブを選択します。
- ステップ 3** [イメージ] ペインで、イメージを選択するか、[追加] をクリックしてリストされていない新しいイメージを追加します。
- ステップ 4** [送信] をクリックします。

ファビコンのカスタマイズ

ブラウザのアドレスバーまたはブックマークされたページ名の横に表示されるお気に入りアイコン (ファビコン) は、カスタマイズできます。

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [ファビコン] タブを選択します。
- ステップ 3** [イメージラベル] 列で、イメージを選択するか、[追加] をクリックしてリストされていない新しいイメージを追加します。
- ステップ 4** [送信] をクリックします。



(注) ファビコンのイメージサイズは 16 X 16 ピクセルで、PNG 形式である必要があります。

アプリケーションヘッダーのカスタマイズ

カスタマー ロゴの横に表示されるセルフサービスポータルラベルは、既存のラベルを変更してカスタマイズできます。

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [アプリケーションヘッダー] タブを選択します。
- ステップ 3** [アプリケーションヘッダー] ペインで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[ヘッダー全体の非表示] チェックボックス	オンにすると、ヘッダーセクションが表示されなくなります。オンにした場合は、ロゴイメージ、アプリケーション名、リンク ([ログアウト] など) を含んだヘッダーが表示されません。
[製品名] フィールド	製品名。
[製品名の 2 行目] フィールド	製品名の続き。
[[バージョン情報] ダイアログの有効化] チェックボックス	オンにすると、[バージョン情報] リンクがヘッダーに表示されます。オフにすると、[バージョン情報] リンクがヘッダーに表示されません。
管理者ポータル	
[カスタムリンク 1 のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク 1 のラベル。
[カスタムリンク 1 の URL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク 1 の URL。
[カスタムリンク 2 のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク 2 のラベル。
[カスタムリンク 2 の URL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク 2 の URL。

エンド ユーザ ポータル	
[カスタムリンク 1 のラベル] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 1 のラベル。
[カスタムリンク 1 の URL] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク 2 のラベル] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 2 のラベル。
[カスタムリンク 2 の URL] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 2 の URL。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示の形式がサポートされています。

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [日付の表示] タブを選択します。
- ステップ 3** 日付形式を編集します。
- ステップ 4** 必要に応じて [タイムゾーンの非表示] をクリックし、タイムゾーンがユーザ インターフェイスに表示されないようにします。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。

カラー テーマのカスタマイズ

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [カラーテーマ] を選択します。
- ステップ 3** ドロップダウン リストから、利用可能なテーマ スタイルを選択します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。

ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログアウトリダイレクト] タブを選択します。
- ステップ 3** URL を入力します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズでは、カスタム ラベルを作成したり、利用可能なレポートを非表示にしたりすることができます。

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。

ステップ 2 [レポートのカスタマイズ] タブを選択します。

ステップ 3 レポートを選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 ダイアログボックスで、以下のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[レポートを非表示] チェックボックス	オンにすると、レポートが表示されなくなります。オフにすると、レポートが表示されます。
[新しいラベル] フィールド	レポートの新しいラベル (必要な場合)。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

高度なコントロール

高度なコントロールを使用して、Cisco UCS Director の特定のプロパティを有効化または無効化できます。

高度なコントロールの有効化

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。

ステップ 2 [高度なコントロール] タブを選択します。

ステップ 3 次のフィールドを入力します。

名前	説明
[パフォーマンスのモニタリング] チェックボックス	オンにすると、仮想インフラストラクチャ モニタリング、物理インフラストラクチャ モニタリング、外部クラウド モニタリングが有効になります。 このカテゴリに含まれるその他のチェックボックスは、すべて必要に応じてオンにします。
[リソースの計測] チェックボックス	オンにすると、VM 計測機能のモニタリングが有効になります。 (注) VM 計測機能が無効になっている場合、チャージバックは機能しません。

名前	説明
[イベントのモニタリング] チェックボックス	オンにすると、イベント モニタリングが有効になります。
[自動サポート] チェックボックス	オンにすると、自動サポートが有効になります。
[ヒートマップレポートのコンピューティング] チェックボックス	オンにすると、仮想インフラストラクチャに関するヒート マップ レポートを生成できるようになります。
[自動アセスメント] チェックボックス	オンにすると、アセスメント レポートを 4 時間ごとに生成できるようになります。このタスクでは、仮想化に関し VMware から提供されるルールとベスト プラクティスに準じて、VMware クロック、ESX ホスト、テンプレート、クラスタ、およびその他のプロパティのアセスメントが実行されます。
[アダプティブ プロビジョニングのインデックス算出] チェックボックス	オンにすると、各種ホスト パラメータについて、ホストの負荷インデックスが 4 時間ごとに算出されます。負荷インデックスは、カタログのアダプティブ プロビジョニングに使用されます。負荷インデックスが低いホストほど、プロビジョニングの対象に選ばれる確率が高くなります。この処理は、特定の VDC のコンピューティング ポリシーに従って実行されます。
[VDC ポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除] チェックボックス	オンにすると、VDC 内の非アクティブな（電源がオフになっている）VM が、管理者の指定した期間の経過後に削除されます。このプロパティは、VDC の [日中に非アクティブな VM は日中後に削除] フィールドに関連付けられています。 (注) このチェックボックスのデフォルトはオフ（無効）です。
[システムタスクのリモート処理] チェックボックス	オンにすると、UCS Director 拡張性導入モデルのシステム タスクのリモート実行が管理上有効になります。オフにすると、システム タスクのリモート実行を無効化できます。
[サービスプロバイダーの有効化] チェックボックス	オンにすると、UCS Director のサービス プロバイダーが有効になります。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ユーザメニュー

標準的なユーザ ロールで利用できるデフォルトのメニュー操作とは別に、個々のユーザ ロールに合わせてメニュー操作をカスタマイズすることが可能です。



(注) 利用できるメニュー設定は、ユーザ権限によって異なります。たとえば、メニュー操作を表示または実行できるのは、読み取り/書き込み権限が与えられた場合だけです。

ユーザメニューの設定

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。

ステップ 2 [メニュー設定] タブを選択します。

- ステップ 3 ドロップダウン リストから [ユーザロール] を選択します。
- ステップ 4 ロールに対してメニューのチェックボックスをオン/オフにするか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。

ユーザの権限

個々のユーザ ロールに対する読み取り権限と書き込み権限を制御できます。



- (注) ユーザの権限を変更する際は、ユーザ ロールが影響を受けないようにしてください。特定の権限がユーザ ロールから削除されると、そのユーザ ロールのメニュー項目が影響を受けて、ユーザがシステムからロックアウトされます。

ユーザ権限の設定

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザの権限] タブを選択します。
- ステップ 3 ドロップダウン リストから [ユーザロール] を選択します。
- ステップ 4 [許可されている操作] ダイアログボックスでは、選択されたユーザ ロールで実行できる読み取り/書き込み操作を確認できます。
- ステップ 5 個々のロールに対してチェックボックスをオン/オフにするか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [送信] をクリックします。

システム タスクの管理

マルチノードの設定により、実行されるシステム タスクと、それを実行するサービス ノードが定義されます。

データ収集などのシステム タスクの処理は、VM サービス ノードに委任できます。タスクの処理のスケール方法は、ノードの数によって異なります。



- (注) すべてのリモート VM ノードに Cisco UCS Director がインストールされて、それらの VM ノードでマルチノードの設定が行われているようにしてください。詳細については、[Cisco UCS Director のインストールとアップグレードに関するガイド](#)を参照してください。

ノード プールの作成

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
 - ステップ 2** [サービスノード] タブを選択します。
 - ステップ 3** [サービスノードプール] アイコンをクリックします。[サービスノードプール] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** プラスのアイコン (+) をクリックします。[サービスノードプールへのエントリの追加] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 5** [名前] フィールドに、ノード プール名を入力します。
 - ステップ 6** (オプション) [説明] フィールドに、ノード プール名の説明を入力します。
 - ステップ 7** [送信] をクリックします。ノード プールが作成されます。
-

システム タスク ポリシーの作成

複数のシステム タスクを 1 つのシステム タスク ポリシーにグループ化して、実行されるシステム タスクと、それを実行するノードを後で決定することができます。



(注) 新しいシステム タスク ポリシーは、デフォルトのシステム タスク ポリシーの他に 1 つまたは複数のポリシーが必要になるタイミングを管理者が決定した際に作成されます。

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
 - ステップ 2** [システムタスクポリシー] タブを選択します。
 - ステップ 3** [追加] アイコンをクリックします。[追加] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** [名前] フィールドに、システム タスク ポリシーに指定する名前を入力します。
 - ステップ 5** (オプション) [説明] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
 - ステップ 6** [ノードプール] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノードプールを選択します。
 - ステップ 7** [送信] をクリックします。選択したノード プールが、新しく作成したシステム タスク ポリシーに属するようになりました。
-

システム タスク ポリシーへのノード プールの割り当て

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
 - ステップ 2** [システムタスクポリシー] タブを選択します。
 - ステップ 3** [名前] 列から既存のシステム タスク ポリシーを選択して、[編集] アイコンをクリックします。[編集] ダイアログボックスが表示されます。



(注) デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。デフォルト以外のポリシーを設定する場合は、「システム タスク ポリシーの作成」(P.4-12) を参照してください。

- ステップ 4** [ノードプール] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノードプールを選択します。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。選択したノードプールが、システム タスク ポリシーに属するようになりました。

サービス ノードの作成

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [サービスノード] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [サービスノード] ダイアログボックスで、以下のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ノード名] フィールド	サービス ノードの名前を入力します。
[ロール] フィールド	サービスがこのノードのロールとして記述されます。
[サービスノードプール] ドロップダウン リスト	デフォルトのサービス ノード プールが選択されます。
[DNS名] フィールド	サービス ノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。 (注) このフィールドでは、プライマリ ノードの IP アドレスを使用することはできません。有効なサービス ノードの DNS 名または IP アドレスが入力されるようにしてください。
[説明] フィールド	サービス ノードの説明。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	http (デフォルト) または https を選択します。
[ポート] フィールド	デフォルトでは、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) のデフォルトの TCP ポート 80 が入力されています。必要に応じて、別の TCP ポートを入力します。
[ユーザ名] フィールド	デフォルトでは、 infraUser というユーザ名が入力されています。infraUser は、デフォルトで作成されるユーザ アカウントです。このユーザ アカウントを確認する場合は、メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。[ログインユーザ] タブを選択して、[ログイン名] 列でユーザ アカウント infraUser を探します。 (注) ユーザ名 InfraUser は、UCS Director システム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。 このフィールドには、他のユーザ名を追加できます。このユーザの API キーは、サービス ノードでの認証に使用されます。

ステップ 5 [送信] をクリックします。サービス ノードが作成されます。

システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 システム タスクが含まれているフォルダを選択します。フォルダ内のタスクを展開するフォルダの矢印をクリックします。



(注) 128 個のシステム タスクが利用可能です。

タスクを選択して、[タスクの管理] アイコンをクリックします。[タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [タスク実行] ドロップダウン リストから [有効化] を選択します。

ステップ 5 [システムタスクポリシー] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。

ステップ 6 [送信] をクリックします。選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

システム タスクの実行

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 リストからタスクを 1 つ選択します。

ステップ 4 [今すぐ実行] をクリックします。選択したタスクにより、その情報が更新されます。

システム タスクの無効化

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 システム タスクが含まれているフォルダを選択します。フォルダ内のタスクを展開するフォルダの矢印をクリックします。



(注) 128 個のシステム タスクが利用可能です。

タスクを選択して、[タスクの管理] アイコンをクリックします。[タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [タスク実行] ドロップダウン リストから [無効化] を選択します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。システム タスクが無効化されます。

アイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログ アイコンのカスタマイズと管理をサポートします。各アイコン セットには、多くのイメージが含まれています。アイコン セット内のイメージは、カタログ作成フォームで使用できるアイコンにそれぞれ対応しています。

4 つの自動入力されたアイコン セットは以下のとおりです。

- コンテナ カatalog アイコン セット
- 詳細カatalog アイコン セット
- 標準カatalog アイコン セット
- VDI カatalog アイコン セット

アイコンの追加

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3** アイコン セットのカテゴリを選択します。
- ステップ 4** [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 5** [アイコンイメージの管理] ウィンドウで [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 6** [アイコンイメージへのエントリの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[イメージラベル] フィールド	イメージの新規ラベル。このラベルは、カatalog作成時にアイコンのドロップダウン リストを追加するために使用されます。
[説明] フィールド	イメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	アップロードするファイル。

- ステップ 7** [アップロード] をクリックします。
- ステップ 8** アップロードが済んだら [送信] をクリックします。

アイコンの編集

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3** アイコンのカテゴリを選択します。
- ステップ 4** [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 5** [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、編集するアイコン イメージを選択します。
- ステップ 6** [編集] (鉛筆) をクリックします。
- ステップ 7** [アイコンイメージエントリの編集] ダイアログボックスで、[説明] を編集します。

- ステップ 8 [参照] をクリックしてイメージを参照し、アップロードする代替ファイルを選択します。
 - ステップ 9 [アップロード] をクリックします。
 - ステップ 10 アップロードが済んだら [送信] をクリックします。
-

アイコンの削除

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
 - ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
 - ステップ 3 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、削除するアイコン イメージを選択します。
 - ステップ 4 [削除] (X) をクリックします。
-

アイコンのプレビュー

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
 - ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
 - ステップ 3 [アイコンイメージ] をクリックします。
 - ステップ 4 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、プレビューするアイコン イメージを選択します。
 - ステップ 5 [情報] をクリックします。
-

サポート情報

Cisco UCS Director サポートでは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用率、ログ、トラブルシューティング用のデバッグ プロセスを含む、基本システム情報および詳細システム情報が提供されます。

サポート情報の確認

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [サポート情報] の順に選択します。
 - ステップ 2 [システム情報] タブを選択します。
 - ステップ 3 [システム情報とログリンクページ] リンクをクリックします。Cisco UCS Director 製品のシステム情報のウィンドウが表示されます。
-

システム情報の確認

基本システム情報には、バージョン、稼働時間、サービス ステータス、システム ライセンス ステータス、使用率、コンピューティング アカウント ステータス、コンピューティング サーバ ステータス、ストレージ アカウント ステータス、システム カタログ、ネットワーク デバイス ステータス、クラウド ステータスなどがあります。

詳細システム情報には、基本システム情報に加えて、データベース テーブル サマリー、製品構成、上位プロセス情報などの他、プロセッサ、メモリ、ディスク、ログ ファイル、ネットワーク、ログインなどの情報が含まれます。システム タスク ステータス、クラウド インベントリ、モニタリング ステータスも確認できます。

ログの表示

ドロップダウン リストからログ ファイルを 1 つ選択できます。[ログの表示] をクリックすると、選択したログの末尾数行を表示できます。

すべてのログのダウンロード

[すべてのログのダウンロード] をクリックして、すべてのログ ファイルを Zip 形式でダウンロードできます。

デバッグ ログの開始

デバッグ ログを実行すると、最長 30 分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

-
- ステップ 1** [デバッグ ログの開始] をクリックします。
 - ステップ 2** デバッグが終了したら、[デバッグ ログの停止] をクリックします。
 - ステップ 3** [HH.MM.SS (時間)] から [デバッグ ログのダウンロード] をクリックして、ファイルをダウンロードします。

